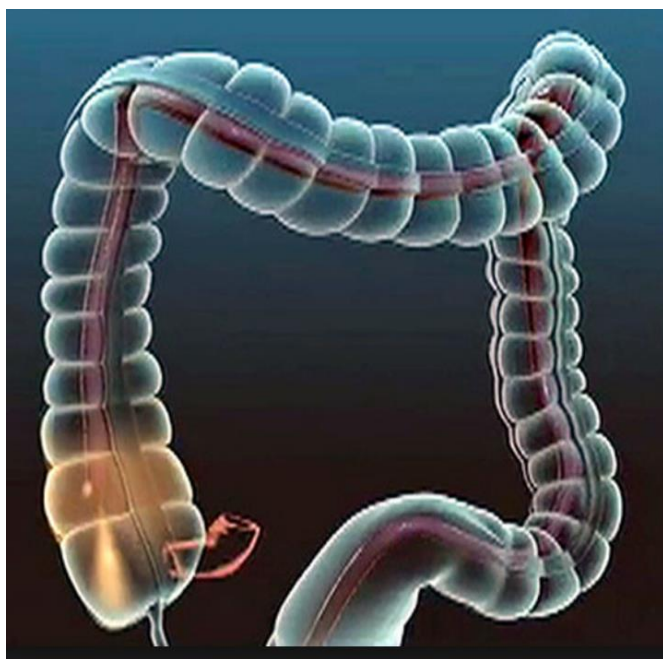
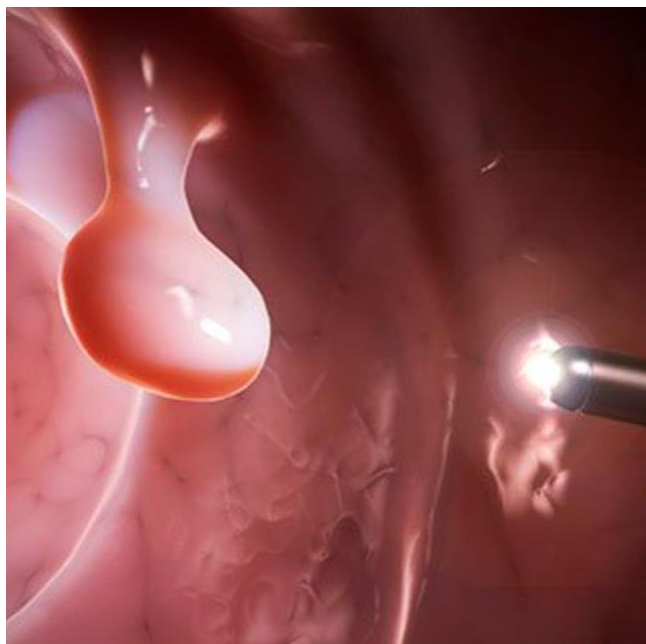


便潜血陽性で大腸内視鏡を拒否 した場合について

便潜血陽性で大腸内視鏡を拒否する患者さんの割合は10~30%という報告もあります。そのうち、カプセル内視鏡で腫瘍性病変が見つかる割合は60%、CTコロノグラフィで腫瘍性病変が見つかる割合は29%という結果がEndoscopy誌に報告されました。



しかし、実際に検査を受ける患者さんの割合はカプセル内視鏡が5%、CTコロノグラフィが7%。



便潜血陽性で大腸内視鏡を拒否する患者さんは、症状がでた時点で進行癌として発見される可能性が高いため、検査を受ける必要があります。